

景観づくり・舗装を議論

神門通りの道づくり

其の
三

平成22年
10月15日

島根県
出雲県土整備事務所
都市整備グループ
電話：30-5666

第三回ワークショップ開催

各地の景観
整備事例

近畿大学協田准教授が紹介

十月四日の夜に出雲商工会において、第三回神門通りの今後の整備を考えるワークショップを開催しました。

プログラムの最初には、これまで、神門通りに関してつくられた各種の景観整備計画の概要説明がありました。

次に、近畿大学で都市計画を専門とする脇田祥尚准教授により、「神門通りの景観形成を考える」と題して、全国各地での良好な道路景観形成の事例、このような景観づくりは好ましくないという事例を紹介いただきました。その上で、神門通りのまちなみ景観の方向性として「神域の延長

としての通り」「歴史的な町並みとしての通り」「観光地の賑わい演出の場としての通り」「生活道路・交通処理のための機能性を持った通り」の4点が重要ではないかという考えが投げかけられました。

グループごとに分かれたディスカッションでは、まずは「景観整備の方向性を考えるために」をテーマに神門通りの景観づくりのキーワードを参加者各自から出して



らい、ふせんを使い意見をまとめました。

次に「まちなみにふさわしい舗装は何か」を議論のテーマとして「石張り」「たわみ性舗装」「インターロックキングプロック」の三種の舗装材に対して、神門通りに何がふさわしいのか、その理由はどうしてなのか、を掘り下げて議論しました。

神門通りの町並みの現況 (脇田研究室作成)



既存計画における神門通りの景観形成方針（歴史の道づくり整備計画～平成12年3月策定）

1. 杵築の歴史や伝統を継承しましょう
2. 自然環境を大切にしましょう
3. 周辺の町並みになじませましょう
4. 町並みのスケールを大切にしましょう
5. 歴史や文化を新たに創りだしましょう
6. 建物は一体でなく、棟に分けて構成しましょう
7. 高さは周囲を見て決めましょう
8. 駐車場はなるべく車が見えないようにしましょう
9. 空き地・空き家は手早く利活用しましょう
10. 看板や設備等も景観に配慮しましょう
11. 堀と花木などの組み合わせでまちを彩りましょう
12. 建物壁面と屋根との連続により街路をつくりましょう
13. 材料は自然素材、地場産を優先しましょう
14. 色調は町並みの中で考えましょう

ステップ 1

景観整備の方向性を考えよう

5グループの意見の集約

●おごそか、神々の

- ・出雲大社の雰囲気があるもの
- ・神々の道（神々しいイメージ）
- ・おごそかな通り（ちょっと空気が重いような）

●松並木のイメージ

- ・松のみどりに神話を感じさせる通り
- ・神々の緑と緑が調和する
- ・松並木と調和した
- ・松並木と黒瓦にマッチした道路

●歴史を感じる

- ・歴史的な趣を感じさせる
- ・歴史を感じさせるまちなみ

●どの時代にあわせるか

- ・大正ロマン（女性的だがセンスがある）
- ・大正時代をイメージしたモダンなまち
- ・出雲大社二千年の歴史のどこにあわせるのか？
- ・現在残っている古い建物にあわせる必要性はあるか？

●統一感のある、まちなみのルールづくり

- ・統一感のあるまちなみ

- ・瓦屋根が続くまちなみ
- ・木の外観、高さをそろえる
- ・今後新築、改修する建物はできる限り統一感を

●混在のよさ

- ・統一しなくてもよい、混在するおもしろさ
- ・雑多性がよい
- ・和風観光地になるのはいかがか？雑然さが賑やかさに
- ・決め事は最低限に
- ・統一しすぎるともよくない

●落ち着いた、控えめな

- ・色彩のおさえた落ち着いた町並みに
- ・門前として、控えめな通りがいい
- ・神苑の前の心落ち着く通り
- ・神聖な領域にあった落ち着いた街並み
- ・シックで落ち着いた街並み

●にぎやかな

- ・神様のもと、これからも栄える通り
- ・商店街なので、賑わいのあるまちに
- ・門前まちの賑わい再生を期待

●落ち着きと賑わいが混在

- ・落ち着きと賑わいが上手く混在するまちなみ

●生活感ある

- ・生活感のあるまち（人の顔が見える）
- ・神聖な参道に固執しなくてもよい

●観光客と住民がともによい

- ・観光客にも、住民にとっても活気のある
- ・生活と観光が一体となった

●その他

- ・直線より曲線美
- ・歩いていて夢やロマンを感じる
- ・四季の色とりどりをを感じるまちなみ
- ・勢溜からまちなみを見下ろす際の景観は重要
- ・石見銀山では交通標識を小さくしているらしい

町並みの現況



ステップ 2

まちなみにふさわしい舗装を考えよう

5グループの意見の集約

自然石舗装



<特徴>

- ・風格感、高級感がある
- ・同じ材料を使用すれば以前と同様に修復が可能
- ・滑りやすいため表面処理が必要

半たわみ性舗装



<特徴>

- ・石材風素材のコンクリートに目地を切って施行
- ・石材風に見え、石材よりは安価
- ・道路の掘削後に同様の素材、色彩での復旧は難しい

インターロッキング舗装



<特徴>

- ・コンクリート製品であり、都市的景観形成に多く使用される。
- ・参詣道の風格の点で難あり

●よい点

- ・風格がある
- ・松並木とあっている
- ・特別な空間を形成できる
- ・長い目で見て自然素材のほうが、自然に風化してよい雰囲気になる
- ・土に近い色の自然石がよい
- ・やわらかい感覚
- ・通りのグレードからすると自然石か

●他の事例から

- ・津野の石畳はまわりと雰囲気が違い、スピードを落とす。風格の面でもよい
- ・伊勢市駅前の石張り舗装を歩いたことがあるが、重みを感じてよかった

●よい点

- ・出雲大社大駐車場前の舗装と統一感があってよい
- ・すべりにくく、値段も程よい
- ・色・形状がフレキシブルでよい
- ・町並みにあったものができる
- ・景観に配慮でき、すべりにくい
- ・強度がある
- ・出雲大社大駐車場の通りの実績がある

●より具体的な提案

- ・目地を切らずに、車道、歩道極端な色分けをしない（パージョ色：神々の道のイメージ）

●よい点

- ・修理が容易

●課題、問題点

- ・どこでもあって、舗装が目立ちすぎ
- ・モダンすぎて、出雲大社の雰囲気にあわない
- ・出雲大社をひきたてる、という視点からは風格を有していない
- ・施行方法の検討が必要、凹凸になる
- ・インターロッキングは凹凸でつまづく
- ・強度に問題はないか

●課題、問題点

- ・経済的に高価
- ・滑りやすくと、住民だけでなく、観光客も困る
- ・工期が長くなる
- ・破損時のストックが必要
- ・交通量に耐えられることが課題
- ・雑然とした町並みのままであるなら、石畳にする必要があるか

歩道：自然石

車道：半たわみ性舗装

●具体的な提案

- ・歩道は自然石で、車道は半たわみ性舗装にする
- ・車道が半たわみ性舗装だと、車の走行音は静かそう

●課題、問題点

- ・色がかわってきたりしないか
- ・表面の劣化が心配
- ・工事にかかる期間はどうか？

歩道：半たわみ性舗装

車道：インターロッキング

●具体的な提案

- ・歩道は半たわみ性舗装で、車道はインターロッキングブロックにする

その他

●具体的な提案

- ・カラーアスファルトという考え方はないか、無理に自然石調にしなくてもよい
- ・大型トラックが走っても家の中でひびかない素材
- ・出雲大社前の坂ですべらない素材
- ・松に水を供給する透水性の高い素材

ステップ 3

まとめの一言

5グループから

- 出雲大社の参道にふさわしい
- 一番新しい参道「観光客」も意識
- 今後の町並みの変化も考える
- 背景としての道路
- 道路のみが目立ったものにならないように

グループの発表から

第1班

・出雲大社の門前にある道路だから「神聖な領域」「落着いた雰囲気」「歴史的な町並み」のイメージにする。「神門通り」は大正浪漫を感じさせる通りに。観光客・歩行者に素晴らしい景色を分かちてもらおう町並みにしたい。一番の観光地として成り立っているところを意識出来たら良い。

・舗装については、「自然石」が良い。出雲大社にイメージが合っている。しかし店がつぶれてしまった場合とかがメンテナンスをするか経済的という問題がある。また、車椅子の方は不便そう。「平たわみ性舗装」は、色や形状が理想に近づけるのでは無いか。「インターロッキング」出雲大社にはイメージがあってないのでは無いか。

第2班

・出雲大社なので「神々しい」イメージが良い。松並木を生かした通りがいい。歴史を感じさせる、大正時代のモダンな建物がある。瓦屋根が続く統一感のある町並み、落着いた町並み、観光客が来て賑わいのある町並みに。

・舗装については、「自然石」が松並木と合っていて風格があるので良いが、費用が高

第4班

社らしさが出るのではないかな。

・神門どおりで唯一誇れるものは何か、「松がある」「商店の活気があることではないか。活気のある町は、店が出ていることが大事。」

・舗装については「自然石」が柔らかい感覚が出るので良い。石のスペアが出来ることが望ましい。交通量に対して強度が確保されることが必要。「平たわみ性舗装」すでに出来ている駐車場との舗装の統一性があり良い。「インターロッキング」は強度に問題があるのではないか。松のことを考えると吸水される素材が良いのではないかな。

第5班

・現在の景観は統一性が無い。統一性ある望ましい方向性の景観にするには時間が必要。住民意識の高揚が必要ではないか。出雲大社に近い「せんざい屋」等流行っている店は、一見統一性がないように見えても、なんか町並みの中で統一されている要素があるのではないかな。出雲大社から駅側へそして大鳥居を見た景観が、観光客としての情報として大切ではないか。商工会議所の建物が景観としてよくない。建物の高さをそろえる方がいい。不文律として出雲大社より高い建物を建てない。

・舗装については、コストや性能など判りかねるので専門家に任せたい。



くないか。「平たわみ性舗装」は強度があり、車の騒音が無く静かという点が評価された。「インターロッキング」は、壊れた時の修復が簡単な点でよいが、モダンすぎて神門通りに相応しくないのではないかな。

第3班

・出雲大社らしさを残したい。他の観光地とは違う「神門通り」の雑多性、商店街のあることを前提とした賑わいのある町並みにしたい。

・舗装については「インターロッキング」は、出雲大社らしさの風格が損なわれるのではないかな。「平たわみ性舗装」は色は上げて汚くなるのではないかな。「自然石」は、コストは高く工事期間は長い。しかし長い目で見ると自然石は出雲大



半たわみ性舗装の事例（出雲大社駐車場付近）



インターロッキング舗装の事例



自然石舗装の事例（津和野町殿町通り）

先生方のコメント

脇田先生

・町並みのイメージとしては、松並木にはえるような町並みが、今回の議論の中で多くキーワードとして出された。松並木のほか、大正浪漫、出雲大社の風格調などを町並み形成のキーワードとしながら、舗装材については自然石という方向性が示されたのではないかな。今回の議論では舗装材をどうするかがメインだった。町並みについては今回の意見を踏まえながら次回もう少し詰めた議論が出来たらいいと思う。

橋本先生

・内容のある議論が出来たのではないかな。出雲大社の参道の将来を考えて議論があった。

・今を考えるだけでなく本当はどうすべきなのかを考えて議論すると整理しやすい。

宇佐美先生

・「長い目で見れば」という意見がとても大切な言葉だと感じた。

・自然石は本物である。時間がたつて変色しても石は石。高額なために予算を取られて別のところの整備が出来なくなるのは困る。今後は、歩道と車道の素材を分ける、パターン化する等いろいろなデザインを考えていく必要がある。

桑子先生

・出雲大社は千数百年の歴史がある。百年後、その次の時代を考え、町づくりを考えても良いのではないかなと思った。

郵便はがき

6 9 3 8 7 9 0

065

料金受取人払郵便

出雲支店
承認
1596

差出有効期間
平成 23 年
3 月 31 日まで
切手をはらずに
お出しください

出雲市大津町1139番地
島根県出雲県土整備事務所
土木工務部 都市整備グループ 行



該当するものに○をつけてください

- ①住所 a. 神門通り近隣 b. 大社町内 c. 大社町外
②性別 a. 男性 b. 女性
③年齢 a. 20 歳未満 b. 20 歳代 c. 30 歳代
d. 40 歳代 e. 50 歳代 f. 60 歳以上
④職業 a. 会社員 b. 自営業 c. 農業
d. 公務員 e. 主婦 f. 学生 g. その他 ()

※以下は記入されなくても結構です

〒 _____ 電話 _____
名前 _____ 住所 _____

スケジュール

第 1 回 神門通り整備を考える
H22 年 7 月 25 日 (日)

第 2 回 神門通りの使い方を考える
H22 年 9 月 6 日 (月)

今回 第 3 回 神門通りの景観を考える～ 1
H22 年 10 月 4 日 (月)

次回 第 4 回 神門通りの景観を考える～ 2
H22 年 11 月 1 日 (月)

第 5 回 神門通りの今後を考える
H22 年 11 月 29 日 (月)

社会実験 (下記参照)
11 月 25 日～12 月 5 日

神門通りの社会実験を実施します

期間：平成22年 11月25日 ～12月5日 (11日間)

- ・第 2 回ワークショップで議論したシェアド・スペース (共有空間) による整備を行う場合、自動車と歩行者を分離しない構造を実際に体験してもらい、その安全性などを評価するとともに、沿道地区の住民の合意形成を図る必要があります。
- ・そこで、神門通りを社会実験の場として、通りにシェアド・スペースに見立てた白線を引き、沿道地区住民、観光客、交通事業者等の意見を収集することを目的とします。

【実験内容】

- ・ 場所：竹野屋付近～一畑電車駅付近 約 250m
- ・ 路面処理：中央線を消去 (信号交差点部は残す)
外側線 一般部 5.0m 信号交差点部 5.5m
- ・ 歩行者空間の安全性確保：ボラード風にカラーコーンと看板設置 (歩行者空間を明示)

- ・ 自動車の安全性確保：実験中・速度低減に関する看板設置
- ・ 実験の広報：ちらしを配布 (沿線地区、道の駅、公共施設等)、HP、市報による
- ・ オープンハウス：空き家を活用した神門中筋線事業の PR、シェアド・スペースの説明、アンケート等

【調査項目】

- ・ 自動車走行速度 (事前事後)
- ・ 一畑電車駅付近での歩行者挙動 (事前事後、ビデオ調査)
- ・ 道路利用者アンケート (交通広場にて配布、郵送回収)
- ・ 沿道住民アンケート (自治会を通じて配布、郵送回収 (～ 12/10 提出期限))
- ・ バス事業者ヒアリング

近畿大学学生による現状景観の説明



アンケート回答用紙

質問① 神門通りについてのご意見を下さい

質問② ワークショップや計画の進めかたについて
ご意見ください

質問③ ご自由に意見を下さい

景観アドバイザー 脇田祥尚准教授の略歴

1969年生まれ

所属：近畿大学理工学部建築学科都市計画研究室

博士（工学）（京都大学）／技術士（都市及び地方計画）

専門分野：都市計画、建築計画、市民参加のまちづくり、歴史的環境の継承

研究テーマ：

市民参加のまちづくりや、歴史的環境の継承に関する調査研究を行っている。島根県では松江市の市民まちづくり活動に1996年から関わるとともに、津和野町殿町の道路景観設計や益田市の景観アドバイザーをつとめる。インドネシア等でのフィールドワークにもとづく都市居住、都市構成、伝統的住居・集落の構成原理に関する研究も行っている。

著書：

『日本の住宅戦後50年』彰国社1995

『建築思潮05 漂流する風景—現代建築批評』学芸出版社1997

『中国地方のまち並み—歴史的まち並みから都市デザインまで—』中国新聞社1999

『まちづくり教科書第1巻 まちづくりの方法』丸善2004

『みんなの都市計画』理工図書2009 他

